ビジネススクールQ&A

Q1 ビジネススクールはどのような教育プログラムを提供するのですか？

ビジネススクールとは、経営（マネジメント）における一定水準以上の高度な能力を身につけた管理者を養成するための教育プログラムを提供するための大学院です。したがって、従来のような研究者を養成するための論文作成指導ではなく、専ら実践的な授業中心の教育が展開されます。

Q2 MBAという学位を取得するメリットは何ですか？

ＭＢＡとは、経営修士または経営管理修士と呼ばれ、とくに欧米社会では、経営管理者のためのパスポートとなっています。日本でも、企業内教育のためのコスト削減が図られ、この学位を取得した人材を、一定レベル以上の管理者として受け入れる姿勢が近年顕著になっています。たしかに、この学位は（医師免許のように）国家資格的なものではありませんが、上級管理者として必要な知識とスキルを備えた人材であることの証を示すものと言えます。

Q3 小樽商大ビジネススクールの特徴は何ですか？

小樽商大ビジネススクールが提供する教育メニューがカリキュラムです。カリキュラムの骨格には「商大」が目指すビジネススクールの理想がこめられています。履修モデルとして次の四つが設けられています。１．ニュービジネスの創造、２．ベンチャー・ビジネスへの挑戦、３．リストラクチャリングの構想、４.キャリアアップ志向。　たんに専門知識を勉強するということより、「自立」と「革新」をビジネスの現場で展開する力を養うための「道場」を提供したいと考えています。

Q4 仕事と勉学の両立は本当に可能ですか？

42単位という修了要件だけを見るといかにも勉強を続けるのが大変なように感じられるかもしれませんが、じつは土曜日を活用しながら、平日夜間の授業を週1日、できれば週2日履修すれば、比較的無理なくビジネススクールでの修学を続けられます。可能ならば、必修の「基本科目」を1年次前期（正味4ヶ月ほど）に集中的に履修すると、その後の勉学に余裕が出てきます。平成１６年度末から導入される「長期履修学生制度」を活用すると、最長4年間でじっくりと計画的に勉強を続けることもできます。もちろん授業料の総額は2年分ですみます。その人の仕事の状況によって色々な履修プランを立てることができます。

Q5 ふだん多忙な社会人学生のために、授業を受けやすくする措置は講じられているのでしょうか？

入学して講義を受ける前に勤務時間との調整ができるように、入学前の早い時期（１月か2月）に次年度の時間割と年間の授業日程を提示できるようにします。３月に新入生ガイダンスを行いますので、そのときに履修指導教員とよく相談してください。また、長期履修学生制度を意味あるものにするために１年次配当科目と２年次配当科目を同じ時間帯にできるだけ置かない等の時間割上の工夫をします。

Q6 個人の希望に沿った個人カルテのようなものを作成して、進みたい方向への手助けとなる措置は講じられていますか？

標準的な履修モデルを示していますが、明確な学習目的がある場合には、その目的を達成できるような履修計画を立てられるように履修指導教員が手助けします。入学後は一人一人にマッチした履修指導を行うため主指導教員（1名）と副指導教員（1名）がつき、その人の修学目的や勤務状況に合った履修プランを一緒に相談しながら作っています。学期中も定期的に面談の機会を設け、履修上の悩みや疑問点を解決するようにしています。面談の積み重ねは、資料としても個人別に保管しますので、対話式のきめ細かな履修相談ができる体制になっています。

Q7 （一般学生について）大学時の成績は関係あるのでしょうか？

もちろん関係あります。大学時の成績は、その人の勤勉さ、努力、知的関心の方向などを示す重要な資料だと考えるからです。ただし、アントレプレナーシップ専攻での2年間のプログラムは、「秀才型の理論家」よりも、「叡智に富んだ実践家」を生み出そうとしていますから、入試に際して優の数がいくつ以上といった機械的な評価はされません。

Q8 社会人入試について詳しく教えてください。

社会人という受験のカテゴリーはありますが、あくまでも他のカテゴリーの受験生と一緒に試験を行い合否を判定します。本学では、社会人受験者に配慮して、試験日を週末ないし祝日に設定し、前期と後期の計２回の受験機会を提供しています。

募集要項

小樽商科大学ビジネススクール（専門職大学院）

※詳しくは、入試課（TEL 0134－27－5254）までお問い合わせください。

■入学定員（募集人員）／35名（前期・後期合計）
■出願資格／社会人、大学からの進学者、留学生
■出願期間／前期：平成16年　9月　1日～9月16日
　　後期：平成17年　1月　5日～1月19日
■試験日程／前期：平成16年10月　9日、10日
　　後期：平成17年　2月11日、12日